

講演会「韓国・日本・琉球の伝統芸能と現代社会」

● 開催趣旨

東アジアの各地には今日まで伝わり、高く評価されている伝統芸能があります。そうした伝統芸能の活動からは、現代社会の直面する問題とも向き合い、新たな作品を生み出されてもいます。免疫学者であり新作品の作者としても活躍した多田富雄は、1990年代初頭に朝鮮人強制連行の史実を扱ったテレビドキュメンタリーに接し、これをテーマとする新作品を創作しました。1993年に初演、その後も繰り返し演じられている「望恨歌」がその作品です。

能楽を基盤に多面的に活躍する「能役者」の清水寛二は、今年6月、この「望恨歌」とともに、沖縄戦をテーマとする多田富雄作品「沖縄残月記」を取り上げ、さらに韓国、沖縄の伝統芸能とも場を共有する「日韓琉 鎮魂の祭り」を企画しました。この公演を前に、韓国の伝統芸能と日本の能楽や琉球の古典芸能とのつながり、さらには現代社会の課題、特に歴史の記憶や非業の死を遂げた人びとの追悼に果たす伝統芸能の役割や可能性を考えていくこととします。

● 講演タイトル：芸能が結ぶ「日韓琉 鎮魂のまつり」

基調講演講師：清水寛二（能楽師、鍊仙会理事）

● 講演・報告・討論

横山太郎（立教大学教授）

竹内光浩（くまから芸能史研究会）

野村伸一（慶応大学名誉教授）

司会：外村大（東京大学教授）

● 日時：2024年5月25日（土）15:00～17:30

対面・オンライン併用形式で開催します。（対面参加の定員数：40名）

● 会場：東京大学駒場キャンパス 18号館 4階 コラボレーションルーム 3

● 言語：日本語（通訳なし）

参加費無料、ただし5月24日（金）までに**事前登録**が必要です。

下記のウェブフォームでの登録をお願いいたします。

開催日までに、事務局よりメールでURLをお知らせします。

・ウェブフォームでの事前参加登録は、<https://forms.gle/95nN9FR5iuLMcXoN7>

・お問い合わせ cks@iags-cks.c.u-tokyo.ac.jp（東京大学韓国学研究センター事務局）



主催 東京大学韓国学研究センター

後援 韓国国外所在文化財財団